

毛周期制御機能と免疫抑制機構の関係 および頭皮環境が毛周期に与える影響

KEYWORDS 毛髪、育毛、頭皮環境、ヘアダメージ、くせ毛



CATEGORY

快適生活

個人研究

研究者紹介



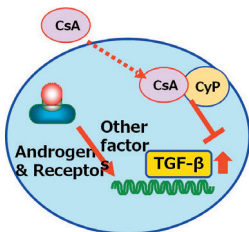
応用生物学部
教授 岩瀨徳郎

主な学会発表
論文・著書・社会活動

論文発表:40報(育毛薬剤の作用機序解明、毛髪科学基礎研究、毛髪ダメージ研究等)
学会発表:105回発表(育毛薬剤の作用機序解明、毛髪科学基礎研究、毛髪ダメージ研究等)
社会活動:ヘア業界および美容師業界への情報提供と活動支援、テレビ、雑誌記事掲載による毛髪科学知識の啓蒙

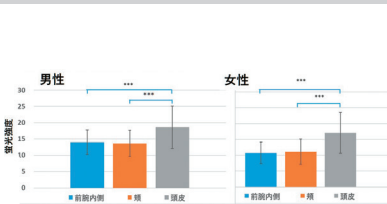
<https://www.teu.ac.jp/info/lab/project/bio/dep.html?id=35>

01 シクロスポリンAの毛周期制御機構の解明と免疫抑制機構とのオーバーラップ



免疫抑制剤シクロスポリンAは毛の成長期を延長し、多毛症を呈する強力な育毛薬剤である。本薬剤の成長期延長機構を解明できれば、有効な育毛薬剤の探索方法の開発につながる。一方、本薬剤が持つ免疫抑制機構と育毛機構の分離が不可欠である。当研究室ではこの相違点に関して研究を行っている。

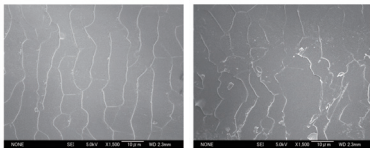
02 頭皮はダメージを受けて毛髪形成に悪影響を与えている



男性も女性も頭皮の酸化タンパクレベルは、前腕内側や頬よりも有意に高く、ダメージを受けている。ダメージを受けた頭皮から美しい毛髪は形成されにくいいため、頭皮のダメージ状態の改善が毛髪形成には重要である。当研究室ではこの点を研究している。

03 くせ毛の特徴とダメージ抵抗性

直毛とくせ毛のキューティクル形成の違い



直毛

くせ毛

くせ毛は大きな毛髪悩みの1つだが、研究例は少なく、くせ毛への対応方法はよく分かっていない。当研究室では、直毛とくせ毛の形態、物性、遺伝子発現を比較し、様々な側面からくせ毛の理解を深めてきた。形態から考えると、くせ毛はダメージ抵抗性が低いと思われるが、毛髪形成タンパクの面ではダメージ抵抗性は直毛と大きな違いがないことが分かってきた。

想定される活用例、相談可能な分野

- 育毛薬剤および抗白髪薬剤の評価、頭皮状態と毛髪形成研究について支援します。
- 育究、抗白髪、頭皮、くせ毛研究についてサポートします。
- くせ毛、白髪、頭皮について情報提供ができます。